

## 「小野町新庁舎建築基本・実施設計業務委託」

### 簡易設計競技審査委員会 審査講評

#### 1. 審査概要

本設計競技は、小野町と福島県建築設計協同組合が締結した「小野町新庁舎建築基本・実施設計業務委託」の設計担当者を選定するものである。福島県建築設計協同組合の組合員の他、関東、東北エリア内に一級建築士事務所の本店又は支店を有するものを対象に簡易設計競技方式により設計提案を求めた。

対象となる施設整備は「小野町新庁舎建設基本計画」（令和5年度）において、既存建物の著しい劣化、狭隘化による窓口・執務環境の低下、ユニバーサルデザイン対応の不備、災害対応拠点としての機能不備などの課題を総合的に解決するため移転新築である。新施設は約 9,950 m<sup>2</sup>の敷地面積に、床面積 3,000 m<sup>2</sup>以内の役場庁舎を整備することとしている。

#### 2. 審査委員

選定に当っては、4名の有識者と4名の庁内委員の計8名の委員により構成される審査委員会が設置された。

審査委員長 長澤 悟（東洋大学：名誉教授・教育環境研究所：所長）

審査委員 浦部智義（日本大学工学部：教授）

鍵屋浩司（東北工業大学建築学部：教授）

鈴木幹英（㈱ティアール建築アトリエ：代表取締役）

菅野 望（小野町役場新庁舎検討会議代表：副町長）

村上昭一（小野町役場総務行革財政担当課：総務課長）

矢吹昌之（小野町役場プロジェクトチーム：代表者）

矢吹浩司（小野町役場事務局：代表者）

#### 3. 審査経過

審査は、4回の審査委員会と、評価のための審査会を3次にわたって開催し、慎重かつ厳正に進められた。

第1回審査委員会は、令和6年10月16日（水）に小野町役場で開催された。審査委員会設置要綱に従い、委員の互選により、委員長に長澤悟東洋大学名誉教授を選出した。募集要項、審査基準、審査の進め方、スケジュール等を審議し、確認を行った。また会議終了後に全員で計画敷地の視察を行った。

第2回審査委員会および第1次審査会は、令和7年1月8日（水）に郡山市市民交流プラザで開催した。

第2回審査委員会は11時から開催した。はじめに事務局より応募状況について次の報告があった。参加表明時には25者の参加表明があり、最終的に16者から技術提案書の提

出があった。各者について応募資格及び失格要件の有無を確認したところ、各者資格を満たしていた。提案書の一部に実施要領で示した文字ポイント数を下回るもの、表現の許容範囲について確認を要するものがあったという報告が事務局よりあり、審議した結果すべて審査対象とすることが了承された。

次いで、審査の進め方について審議した。審査は3次にわたって行うこと、書類選考による第1次審査会、第2次審査会は非公開とすること、第1次審査会では第2次審査対象者を8～10者選定し、第2次審査会では最終審査対象者（ヒアリング要請者）を3～5者選定すること、また、第3次審査会での最終審査は、ヒアリングおよび選考協議とも公開とすること、評価は総合評価で行うことなどを確認し、了承された。

引き続き、13時から第1次審査会を開催した。各委員は、事前に提出書類について読み込んだ上で審査会に臨んでおり、議論の密度を上げるため最初に数を絞ることとした。事前の仮評価をもとに各委員が応募数の半数にあたる8者を選んで投票した。投票後、集計結果が出るまでの間、各審査委員が16者全者の提案を見ての全体的な感想、それぞれの専門的視点から本計画で重視したい点、8者を選んだ理由等について順次意見を述べた。

投票結果は、次の通りである。

8票（満票）が2者、7票が3者、4票が4者、2票が4者、1票が3者

この結果をもとに選考に移り、まず8票、7票の得票のあった計5者は、投票しなかった委員の意見も確認した上、選定した。次いで半数の4票を得た4者について評価できる点と問題点を議論した上、全て選定することとした。さらに2票、1票を獲得した7者の中から防災面等で積極的な提案の認められた1者を加え、計10者を2次選考の対象とすることを全会一致で決定した。

第3回審査委員会および第2次審査会は、令和7年1月14日（火）に郡山市市民交流プラザで開催した。

第3回審査委員会では、2次審査および第3次審査のためのヒアリング審査の進め方について事務局案の説明を受け、その内容について審議、確認を行った。提案書の枚数が多く、提案内容も多岐にわたるため、ヒアリングにおける質疑応答の時間を当初案より5分間延長し、各者、説明10分、質疑応答を20分で進めることとした。

次いで、第2次審査会を行った。1次審査で選出された10者を対象とし、ヒアリング対象とする5者の選出を行った。提案内容について、実現性も含めて各審査委員が意見を出し合い、各案について理解を深めた後、各委員が3者を選んで投票を行い、その結果をもとに選定を行うこととした。

投票結果は次の通りである。

6票が1者、5票が1者、4票が1者、3票が1者、2票が1者、1票が4者、  
0票が1者

まず、半数以上の委員が投票した上位3者について、投票した委員、しなかった委員が意見を述べ合って内容を確認し、選定することとした。その後、3票以下の得票のあった6者

の提案を吟味し、特長があるという意見の強かった2者を加え、最終審査（ヒアリング）対象者とするのを全会一致で決定した。その結果は次の通りである。

受付番号④、受付番号⑧、受付番号⑫、受付番号⑭、受付番号⑯

その後、公平のためヒアリング時の5者の発表順をクジ引きで決定した。

第4回審査委員会及び第3次審査会は1月21日（火）に郡山市労働福祉会館中ホールで開催した。

審査委員会では、最終審査の進め方等について最終確認、ヒアリングでの質問項目について意見交換を行った。

引き続き12時30分より最終審査となる第3回審査会を公開で行った。まず5者からそれぞれヒアリングを行い、プロジェクターを使って提案者からプレゼンテーションを受けた後、第1次審査、第2次審査における意見交換の内容も踏まえながら質疑応答を行った。

各者のヒアリング終了後、暫時休憩をはさんで選考の審議に移った。

まず全審査委員が順次、ヒアリングを通じての全体的な印象や課題について感想を述べ合い、その後、評価したい点、問題点等について意見を出し合った。意見が出尽くしたとされたところで、投票を行った。各審査委員がそれぞれ2者を選び、最優秀に◎、優秀に○を付け、その結果をもとに得票が多い者を選定することを申し合せた。

投票結果は次の通りである。

受付番号⑫ ◎4票、○が1票

受付番号⑧ ◎2票、○が2票

受付番号⑭ ◎2票、○が3票

受付番号④ ◎0票、○が1票

受付番号⑯ ◎0票、○が1票

この結果について最終確認を行った上、受付番号⑫を最優秀提案者、受付番号⑭を優秀提案者とするのを、全会一致で決定した。

#### 4. 審査結果

最優秀提案者（受付番号⑫）：香山・小坂設計共同体

優秀提案者（受付番号⑭）：楠山設計&フォルム建築計画設計共同企業体

#### 5. 講評

[総評]

実施要領で求めた、次の4つのテーマに対する提案性および実施体制、設計の進め方等について議論を重ね、評価を行った。

- ① 災害に強く、安心、安全な暮らしを支える庁舎
- ② 町民に親しまれ、誰もが利用しやすい庁舎
- ③ 経済性に配慮した庁舎

#### ④ 環境にやさしく、まちと調和した庁舎

関連して、審査委員からは重視したい観点として次のような意見が出され、共有して審議を進めた。

- 役場は単なる業務施設ではなく、コミュニティ施設、シティホールとして捉える。町民の居場所となり、交流を深める場、人々を迎え入れる雰囲気、屋内外の活動スペースの豊かさ、議場の多目的な活用可能性等を評価する。
- デザイン優先でなく、住民の使いやすさ、交流の場、職員の休憩を含めた働きやすさを重視し、あわせて土日の利活用、維持管理のしやすさについても留意する。そのためのスペースの確保、動線、室・スペースの連携、将来の変化に対する可変性や柔軟性等を評価する。
- 一方、新たな場所を得て、町民生活の新たな拠点、町のシンボルとしての姿が期待される。小野町の文化、歴史、景観資源を読み込んだ提案、インターに近く交通の結節点にあたるので、町外の人にも立ち寄りやすい施設となっているか評価する。
- 防災拠点としての役割は大きく、災害時の防災センター機能、円滑な避難者対応等の工夫について評価する。また保健センターとしての工夫についても評価する。
- 木材の活用について、木造化と内装木質化の選択と効果の活かし方、および木材調達、長寿命化、維持管理、コスト管理等とあわせた提案について評価する。
- 本設計競技は、プロポーザル方式ではなく簡易設計競技であり、審査においては建築計画、意匠、構造、設備等についての提案内容と共に、厳しい工期や建設物価の高騰、職人不足という今日の建設状況を踏まえ、初期段階からの工期やコスト管理の考え方、実施体制をもとに、提案の実現可能性について評価する。

審査に当たっては、上記の観点から意見交換を重ね、評価を行った。全体的には各者よく検討され、建物位置、階数、機能の配置、構造、木材の活用、防災機能、環境配慮等、多様かつ密度の高い提案が揃い、3次にわたって行った投票結果にも微差のところがあり、選定は困難を伴ったが、率直に忌憚のない議論を重ねる中で、選定に至った。

[個別評] (ヒアリング対象者、1次審査通過者毎に記載)

#### 最優秀提案者 (受付番号⑫)

与えられたテーマをもとに「だれもが立ち寄りやすく、利用しやすく、執務しやすい」、小野町らしさを生かした庁舎を基本コンセプトとして、実現しようとする庁舎の姿と課題が明確に示されている。木造に3角形のRC部分を2つ挟み込むことで防火性能と耐震性を確保した上、庁舎内および屋内外の一体感をつくる明るい「えんがわ」空間、木の架構を生かしたスペースごとに特色ある空間と屋根の重なり合う伸びやかな外観をもち、町民ホールや多目的な活動の場となる議場、将来の機構改革への柔軟な対応可能性等、運用面にわたり様々なアイデアが見られる。

同時に、工事費、工期、木材調達、設計体制、町民参加に期待する内容等について具体的に説明がなされ、質疑応答におけるコミュニケーションや説明能力の高さと共に、厳しい条件の中で実現性の高い提案として高く評価された。

なお、本提案では議会と議会事務局のフロアが分かれており、この点については 3 階の平面構成とあわせて町との協議、ワークショップでの検討をして、実施案を導き出すことを期待する。

#### 優秀提案者（受付番号⑭）

小野町の新庁舎の在り方について、設計者の考え方、目標がよく示されている。建物は免震化を想定してコンパクトにまとめられ、まちやどテラスと名づけられた大庇の空間が町民を迎え入れるとともに、3 層にわたって設けられた町民ロビーが各階に導く構成となっている。室配置により一部に通過動線が生じている点は問題である。防災、免震化、ZEB、LCC 等の各課題について、またスケジュール管理やワークショップの進め方について丁寧に説明されていることは高く評価できる。一方、比較検討して決定するという記述が見られ、目標としての提案性はあるが、建築コスト面や工期を含め実現性のある提案となっているか心配である。北側に抜けるこの場所の眺望を生かせる配置を取りながら、閉鎖的なことは残念である。またルーバーを設ける外観には、この場所に建つ建物、小野町の新しい顔となる建物としてやや物足りない。

#### 受付番号④（ヒアリング対象者）

RC 造で、経済スパンで計画されており、平面的にも無理がなく、オーソドックスな“庁舎”という構えをしている。シティホールとして町民が立ち寄りやすく、いろいろなことができる場とする上で、エントランスまわりの豊かさ、防災広場となる外部空間の広さにやや欠ける。議場および関連諸室を 3 階に独立して配置しており、議場の多目的利用に難がある。地中熱利用、エコシャフト等、様々な省エネ技術が示されているが、大きなガラス面の日射調整等、基本的な性能を確保し、空調等のランニングコストを低減する設計が求められる。庁舎に対向して道路側に倉庫を配置しているが、道路景観や間の雪処理に問題がある。

#### 受付番号⑧（ヒアリング対象者）

諸室の機能を整理しながら明快な配置構成となっている。全体として本庁舎設計に対する意欲が伝わってきた。東側に 3 層にわたる階段状の大きなガラス面を設け、建物を印象的にしている。町民が立ち寄りやすく、交流を生み出すシティホールとして、エントランス回りが閉鎖的。1 階の待合ホール、多目的スペース、大会議室が一体に使える配置はよいが、天井高が確保されていない点が惜まれる。災害対策本部となった場合の会議室のゾーニング、職員の机レイアウトの情報セキュリティ、職員のリフレッシュ空間等に問題が感じられた。北側に来庁者駐車場があるのは冬場の雪の問題が指摘される。

#### 受付番号⑩（ヒアリング対象者）

庁舎前面に駐車スペースを確保し、国道から見えやすい配置は、道の駅のように人を招き入れる雰囲気を感じられる。執務環境も北側に眺望が開け、場所性をよく読み取った案である。鉄骨造と木造のハイブリッド構造だが、木造を生かした待合スペース、町民ホール、軒先空間等、様々な町民の場が設けられている。階段に面する議場には多目的な利用が考えられ、議会図書室の町民利用も評価できる。惜しむらくは議場まわりがやや窮屈である。3階にバルコニー付きの広い職員ラウンジを設けており、町民にも利用できる場となることが期待される。ワークショップについて、厳しいスケジュールの中で、何をどう決めていくか明確にする必要がある。

#### 受付番号①（1次通過）

平面は吹き抜けを中心にシンプルにまとめ、防火区画や時間外使用についてもよく考えられており、メンテナンスも含めて使いやすそうな計画である。新たな町のシンボルとなる建物としての印象がやや薄く、町道に対して倉庫が庁舎を遮っている配置は、両者の間の通路の積雪の処理も含め疑問である。木造フレームを生かした構造であるが、外周 RC 壁が水平力を負担するという説明に対し、窓の位置が上下階で違っている点は不合理で、スケジュールが明確に示されていないこと、環境配慮についての記述が少ないことも残念である。

#### 受付番号③（1次通過）

国道側にコンパクトに配置しており、存在感もあるが、庁舎エントランスが国道と逆の側で、町に背を向けているのは違和感がある。国道に沿った北側は敷地外であり、配置上の問題が残る。エントランス前の多目的広場は、駐車場と一体になり、日常的なイベントや災害時には防災広場として救援物資の置き場や炊き出し等に有効である。RC造と木造の混構造で、町民スペースや執務空間は木造の居心地のよい空間となっている。吹き抜けを挟んで一体感があるが、町民ホール等がやや窮屈な印象である。駐車場から多目的広場やエントランスまでの動線、エントランス前を駐車場への車動線が通過する点は改善が求められる。

#### 受付番号⑤（1次通過）

美術館のようなデザインに魅力が感じられた。2階に窓口機能を集約し、1階に議会や設備関係等、利用頻度の低いものを配置しているのは町民の利用上疑問である。2階建の上下階の面積バランスが悪く、その結果建築面積が大きくなり、土工事によるコスト増が懸念される。2階の外周に回廊を巡らせ、リフレッシュ空間や火災時の避難動線としているのはよいが、柱からのほね出しが6mあり、そこに書庫を配置するなど無理が感じられる。議場が常水面より低く、防水対策等を要する。

#### 受付番号⑨（1次通過）

良くも悪くも外観は装飾的な印象が強く、設計者としての想いは強く伝わってきたが、コスト面を含め、最終的に共感するに至らなかった。1階の多目的スペースと町民ホール、2階のイベントテラスとラウンジ、3階の議場ラウンジ等を町の方向に向け、町民を迎え入れる空間配置は評価でき、議場を開く提案があるとさらによかった。町道からよく見える西側が平面計画的には裏となっており、図に示されていない西側立面について配慮が求められる。来庁者駐車場とエントランスとの関係は検討を要する。

#### 受付番号⑬（1次通過）

4つのテーマについて、具体的に様々なアイデアを示し、計画案に即してソフト面を含めて内容が説明されており、説得力があった。特に防災面について、地域を繋ぐ対策としてロードレースを通じて災害時の協力体制を構築するなどのユニークな提案がなされ、フェーズに応じて柔軟な対応を考えようとしていることは評価できる。コスト的にある程度割り切って、鉄骨造により大空間を作ろうとしている点も一定の評価ができる。エントランスの位置、駐車場からのアプローチに難があり、この場所にあって町の新しい顔となる外観、町民の過ごす場所としての豊かさ等の点で、魅力がやや乏しい感がある。

#### 受付番号②

屋外広場や防災広場とそれに面した町民ホールや多目的スペース等、外に開けた空間で、軽快な屋根で覆われた外観や自由な空間からは、町民を迎え入れる場として庁舎を捉え直そうとする新しさが感じられる。一方、長く町民の生活と安全を支える拠点となる新庁舎として、期待された安定感、安心感、シンボル性が十分感じられなかった。

#### 受付番号⑥

変形の建物形状と周囲の景観を取り込む裏のない平面が特長で、木質化された空間とあわせて評価できる。全面ガラス張りの外観については、町の気候風土に対し、環境性能や居心地のよい場づくりという点で疑問である。建築的な説明は全体的によくなされているが、窓口のカウンターまわりにゆとりがなく、庁舎としてゆとりを持たせる提案が欲しかった。

#### 受付番号⑦

庁舎を4枚羽の風車に見立て、複合的な機能をそれぞれの羽の部分に割り当て、その中心にセンターコアとして町民ホールを置くという着想は面白く、説得力もある。一方、そのために庁舎空間の一体感が損なわれ、何より町民ホールが閉鎖的となり、その2階に議会の委員会等諸室が置かれているのも疑問である。外壁面積が大きくコスト的な懸念も残った。

#### 受付番号⑩

求められた4つのテーマを受けて、庁舎の建築計画について考え方を示し、その案について建築的な説明がなされるという提案書の構成であり、条件に応じた新たな提案が期待される。オーソドックスで庁舎として破綻なくまとまっているが、ワクワクさせる魅力が欲しかった。場所の読み取りとして北側の駐車場や景観に対して閉じているのは疑問である。

#### 受付番号⑪

テーマに対して、一つ一つ細部まで丁寧に検討されている様子がうかがえ、好感がもたれた。建築的には、空間のまとまりが弱く、片流れ屋根の外観も新しい庁舎として印象が薄い。道路に対して妻壁が面するだけというのはやや寂しく、2階テラスが内部空間と切り離されていて連続感がないのも残念である。

#### 受付番号⑮

ユニークな架構と形態は、建築としての魅力が感じられた。町民の迎え入れ方、休日の利用、カウンター業務とバックヤードを一体とした執務環境、休憩を含めた職員の働き方、組織の変更があった場合の柔軟な対応等、庁舎として求められる機能や空間について具体的な提案、説明がほしかった。

#### おわりに

1次審査の投票では、16者全てに得票があり、本プロポーザルに対する応募者の提案に対する意欲と創意が伝わってきた。また、本計画は多面的な観点から進める必要性があり、その可能性のあることを示していただいた。

本簡易設計競技に積極的に参加され、丁寧な説明、業務への向き合い方が感じられた。これだけいろいろな提案を頂けるとは思っていなかったので興味深く、感謝もしている。

16者もの応募があった多くの貴重なご提案を頂いた各応募者の皆様には、審査委員一同、深く敬意と感謝を表します。

(審査委員長 長澤 悟)